

今までも振り返って

二年 金谷 健

女まぎクラブに入った動機から。

高校（茨城・古河三）が自転車通学で、学校まで六キロを五段のスポーツ車で毎日走っていた。とにかく朝のさわやかな空気のなかを走るとは、実に気分がいいことになった。特に春は、道路の両側の田んぼや畑が一面、緑で、その中をゆくりゆくりアザルをこいで行くことが、なんとも言えず楽しかった。友だちや先生へ何んか自転車でキーコキーと学校に来る先生がいて、そんな先生がオレ好きだ、たしのバカにしたような顔にどんどん扱かれて、毎日のように遅刻へ二年の時は100回以上したようなきがする。すでに先生の集まっている教室に入っ

ていく時の緊迫感が、何ともいえずよかった。していたのだが、逆にその水が余計にいい長分たさせてくれる。たまた、オレはとも時間をも有効に使っている気がして……。もともと、三年になつて〇〇ちゃんという、アゲネスラムと木之内みどりをミックスしたようなかわいらしい女の子を好きになつてからは、その子に会いたくて一度も遅刻しなかつた。け。

そんなわけでおし、とにかく自転車に乗ること自体がとも好きだったし、水とマッススポーツも得意ではなかつたから、大学に入つたらサイクリングでもやろうと思つていた。ただ何日か一日中走るといふ事が、どくらうに疲れるのか、まるでわからなかつた。たまた、体力的に不安があったし、すでに不器用で機械いじりが苦

まだ、たのび、その前も不安ではなかった。

そして、そのころはこう信じて疑わなかった。

「自転車は、騎乗に、のんびりと、ゆっくり走るものなのだ。」

★ワラブに入門してみよう。

4月末に早くも、雨が愛車「ワルビム」が出

来た。雨はそれまで普通のスポーツ車にしか乗

ったことがなかったためか、最初こそ思った、

「こりゃ速いや、こりゃばこいほど、どんどん進む。」

それで次第に高校のころと考えが変わって、

「自転車は、速く軽快に走るものなにかもし水

なり……。」

と思うようになった。

オレはいつも新しい環境になじむ。が遅くて

大学やワラブになじむのに一年かかったような

身がする。もちろん部員ひとりかひとりかどのよ

うな考え方もする、どのような性格。人同士の

か、全てわかったとは言わない。ただ、どの

ように接するべきかは、なんとなくわかったよ

うな身がする。

★サイクリングの魅力について。

まずサイクリングと旅の関係について。オレ

は旅の本質は、見知らぬ人との逢いにあります

と思う。旅に赴くと誰にでも話しかけたいな

らしていつか、向かか、いろいろと語りあつて

る自分に身づく。これも、もう一度とこりして語

りまうことはない……と感傷的になる。だから

こころしめと語りあつて思う。よく旅の本

質がある。

かにサイクリングの本質は、ヤダルを踏みこむ時の感触にある。それが何ともいえずいいから、何回も走れるのだらう。それが根底になつて、次に周囲の風景へ目的地的な風景というよりは、走つてゐる途中の、ヤダルを踏みこんでゐる時の、まわりの風景が大切なのではないかしら問題になつてくる。その次がダウンヒルの軽快さかな。とにかく、オーにヤダルを踏みこむ時の充実感、生の発散による。この点でサイクリングはスポーツと言ふ。そして、ひとつ言ふことは、このようなサイクリング本来の喜びを十分に味わえるコースは、そう多くはないといふことだ。阿蘇や野々原のように、もう一度走つてみたいと思つてゐるは、なかなかない

と思ふ。峠の場合、標高差、距離、勾配、路面状況、周囲の風景、交通量、車種、天気など、いろいろを要素がかわつてきて、いいところはずかなくなつた。

また、サイクリングと旅の関係だが、サイクリングに旅としての要素を持たせようとするならば、ソロが最適だと考ふる。そうだとするとサイクリングに車室の発見的なワイワイという雰囲気を持たせようとするならば、身もたれ仲間と行くのがいい。向ふかへ行くフリーライドは後者によりて、ややサイクリング自体に重きを置くことで、合宿は逆にやや静寂。延長的な雰囲気と重きを置くべきだろう。そして、スポーツとしての性格を前面に押し出すなら、ハイムトライアル的になるのをさうぶ。

たからこの4つのサイクリングを、各自の性
格や体力や金力に応じて、うまくバランスを保
って、行なっていくことが大切なのだと思う。
どのサイクリングにも魅力がまっけて、ど水が一
番いいとは言えないと思う。

本二水がらのことについて。

サイクリングは各自の体力に応じてやればよ
い↓トリーニングはしなくてもよい。このよう
に今までは考えがちだったが、最近体力の低下
を身にしみて感じてきて、体力を維持できる程
度のトリーニングは、サイクリングの喜びを味
やう最低条件だと考えるようになった。やはり
週2回のトリーニングは欠かせない。二水はク
ラブのまとまりという点でも重要だろうが、そ

れ以上に、オレ個人の体力維持という点で参加
したい。

最後にクラブの現状については、一応満足は
しているが、サイクリングに対する考え、クラ
ブに対する考えというものについて、部員間の
話し合いがちなすまじいと思う。何も考えが一致
する必要はないが、各自の考えというものを確
認しておかないと、具体的に合宿やフリーラン
日例などについて話し合う場合、ピンかク
グハグになっってしまうと思うのだ。

以上